

『夢通信』2月号 号外

磁石の話 ー小学校への出前授業ー

09.02.09

『昨年来てお話して頂いた「磁石の授業」大変好評だったので、今年もお願い出来ますか?』担当の位田教諭からの依頼があったのは1月下旬でした。『去年は3年生全員、120人を同時に実施したので無理がありました。今年は2回に分けて60人づつにしてはどうでしょう。』こんな提案の後、日程が2月6日午後に決まりました。砂鉄や天然磁石を自分の手で触ることが大切なのです。あまりに大勢になると、引っ込み思案の子や気の弱い子供は、みんなの後ろで見ているだけで終わってしまいます。

持ち込んだ教材は、天然磁石・各地の砂鉄・浮いた地球儀・指南勺(地盤)・江戸時代の製造方法で作った鉄(ケラとズク)・各地の鉄鉱石・強力な磁石(ネオジウム)などでした。はじめに自己紹介その後、教室の各所においた教材の簡単な説明をしました。10人ほどのグループに別れ、順番にそれぞれのモノを触ります。疑問が出ると『先生何でこうなるの??』先生ではない私に質問。わかることは答えますが、わからないことは『おっちゃんも知らない、あなた調べてください。』そんな受け答えをしました。

45分の授業があつという間に済んでしまいます。『ハイ皆さん、お礼を言いましょ!』『ありがとう!!』『ありがとう!!』。その後も『あとの組が来るから早く出なさい。』先生の催促にもなかなか動き出さず、砂鉄遊びや天然磁石に夢中になっている子供もいました。私は子供達に囲まれ楽しい1日が過ごせました。

今年夏休みまでに『鉄のふしぎ博物館』の開館を計画しています。

神戸新聞

2009年2月7日土曜日地域ニュース姫路26面

姫路・系引小

磁石の力児童くぎ付け

製鎖会社社長が出張授業

姫路市飾磨区阿成渡場、衣川製鎖工業社長の衣川良介さん(六三)による、磁石を題材にした出張授業が六日、同市東山、系引小学校であった。三年生約百二十人が天然の磁石や砂鉄などに触れた。

衣川さんは、各地の砂鉄や磁気を持ちた鉱石を収集。一昨年から夏休みには、会社の一角を鉄のミニ博物館として公開している。授業は昨年にも続き二回目で、収集物の一部を持参した。

児童らは、衣川さんから紙幣や使い切りカイロ、石の一部が磁石に付くと説明を受けた後、つ



天然磁石に石を近づける児童たち＝姫路市東山、系引小

り下げられた天然磁石に石を近づけたり、砂鉄が乗った皿の下で磁石を動かしたりした。磁石の力で浮く地球儀も人気を集めた。

藤田真緒さん(九)は「地球儀が勝手に浮かぶのがおもしろい。石が磁石に付くのは驚いた」と話していた。(大島光貴)

☆ 大人も楽しめる『鉄のふしぎ博物館』 準備中ですが、いつでも見学出来ますので、是非お立ち寄りください。